

ライフケアガーデン熱川 本館

症例概要 利用者:90代、男性 要介護1

病名:糖尿病、三叉神経痛、腰痛

経過:S市在住。40代の頃、自宅で釣り具店を興す。手先が器用で、釣り具作りなども行ない、繁盛させていた。歳を取られても、数年前に体調不良となるまで、お店を営んでいた。15年以上前から糖尿病と三叉神経痛を患い加療を続けるも改善せず、さらに7年前には大動脈弁狭窄症の手術を受けた。奥様も体調を崩され入院となり、独居となっていました。徐々に生活が困難となり、2018年12月に奥様とともに夫婦部屋での入居となりました。

内 容

入居当初は部屋に閉じこもりがちで、食事以外でロビーで過ごされることはほとんどなく、奥様以外の方と交流されることもほとんどありませんでした。奥様の体調がすぐれず、それを心配しながら過ごされる毎日でした。

2019年9月に奥様が亡くなり、夫婦部屋にお一人で過ごされるようになり、精神的に落ち込んでいく様子が見受けられました。

肉体的には、腰を痛めており、腰をかがめて歩かれるため、疲れやすく、長い距離は歩けない状態でした。また糖尿病の影響で、寝ている間に足が痛むため、熟睡が妨げられることが多い様子でした。

元々、手先が器用で、釣り具店の経営では、「下田ばけ」という釣り具を発明し、飛ぶように売れ、その人気を聞きつけ、伊豆のあちこちから注文が入るほどでした。そのため、毎日夜遅くまで奥様と一緒に作製していたとのこと。よって、手先の器用さと釣り具に対する思い入れは、人一倍でした。そこで、釣りの話を振ったり、レクリエーションとして折り紙を勧めたりしてみました。すると、大変上手に作られ、ご本人も大変楽しめるようになり、夢中になって行うようになりました。それをきっかけに日中をロビーで過ごされることが多くなってきました。

ロビーで過ごされることが多くなったことで、他のレクリエーションにも参加するようになり、入居者さん同士おしゃべりされることが多くなりました。気持ちが前向きになり、徐々に明るいキャラクターが周りの方にも認知されるようになって、人気者のような存在になりました。

肉体的にも、毎日、頻回に居室からロビーまで歩いて往復されるようになったため、体力や脚力がついてきました。運動量が増えることで、糖尿病も落ち着き、痛みも緩和してきているようです。

現在では、仲良しの仲間が出来、食事やレクリエーションを楽しむ毎日を過ごされています。